

昔・むかしを伝える会の豆まき大会

(2月1日、すまゝひろば)
市民グループ「昔・むかしを伝える会」が二年前から開催しているこの催し。ひかり幼稚園の園児140人が参加し、新聞紙で作った豆を3匹の鬼に向かって元気に投げました。



▲鬼は外! 福は内!

第46回新春囲碁・将棋大会

(1月27日、中央公民館)
今年で46回を数える伝統の大会には市内外の老若男女58名が参加。囲碁と将棋の部に分かれて真剣勝負を行いながら、世代を超えた交流を楽しんでいました。



▲二面差しも楽しみの一つ

薬師の湯に電動スクーターを寄付

(1月24日、薬師の湯)
仙台市で障害者の自立生活支援に取り組んでいる「CILたすけっと」が、免許不要の電動スクーター2台を寄付。早速、デイサービス利用者の皆さんが試乗しました。



▲誰でも簡単に運転できます

きれいな花が咲いたね!

北保育園で団子刺し

1月10日、北保育園の園児69名が、恒例の小正月行事「団子刺し」を行いました。園児の祖父母や地元の皆さんがお手伝いする中、ちびっ子たちはもちつきや団子作りに挑戦。小さな手で必死に団子を丸める姿に、大人たちは目を細めていました。最後に、3本のミズキの枝に団子を一つひとつ丁寧に飾り付けた園児たち。色とりどりのもちの花が咲いた美しい木を見上げながら、歓声を上げていました。



▲飾り付けを行う園児たち

アフリカって素晴らしい!!

感じよう! アフリカの大地の香りin白石

1月12日、壽丸屋敷で楽しい国際理解講座「感じよう! アフリカの大地の香りin白石」が開催されました。



▲会場は満員となりました

お話は白石出身でJICAウガンダ事務所調整員の小畑けい子さん。ウガンダの子どもたちの学校生活や青年海外協力隊員の活動などを紹介し、スライドやビデオを使いながらアフリカの大自然と厳しい国情を分かりやすく説明しました。また、アフリカ8カ国を紹介するブースも設置され、多くの人たちが足を運びました。

スキーと温泉を満喫!

南三陸町との交流がスタート!

1月26日、南三陸町の皆さんが訪れ、白石スキー場や小原温泉で、冬の白石を満喫しました。



▲スキー場に到着し全員で記念写真

これは、本市との交流を記念して、南三陸町観光協会が定員20名の日帰りスキーツアー「白石! 温温プラン」を企画したものです。南三陸町とは、互いの特色ある観光資源を活用して交流を始めようと、昨年準備を進め、今年から本格的な交流がスタートします。夏には、本市から南三陸町へお伺いする予定です。

蔵王の冷水が深い味わいに変えます

寒ざらしそばの仕込み作業

1月22日、白石スキー場近くの溪流で寒ざらしそばの仕込み作業が行われました。寒ざらしそばは、冬場の冷水にさらすことであくが抜け、ソバ自体のほのかな甘みが増すことで知られています。この日は、地元で取れた玄そば63袋(1袋10kg)を沢に浸す作業が行われました。

玄そばは2月5日に引き揚げられ、乾燥させて3月下旬から材木岩公園内の「そば処なごみ茶屋」などで提供されることになっています。



▲手際よく作業を進める関係者の皆さん

新成人! 責任のある行動を!

手をつなぐ育成会「成人を祝う会」

1月20日、中央公民館で障害を持つ子どもの親たちでつくる「白石市手をつなぐ育成会」が、成人を祝う会を開催しました。



▲新成人を囲んで全員で記念写真

今年、成人を迎えたのは、斎藤裕美さん、遠藤良幸さんのお二人です。既に社会人の仲間入りをしているお二人は、これからも仕事に頑張りたいとあいさつ。風間市長をはじめ、多くの来賓の皆さんからお祝いの言葉をいただき、出席者全員でお二人の成人をお祝いしました。



▲熱戦を展開する子どもたち

風間市長の「虫のサンシャキ」 「小十郎」

1月25日に河北新報が紙齢4万号を迎えたそうです。その記念に第1号(明治30年1月7日)、1万号(大正13年12月13日)、2万号(昭和27年6月27日)、3万号(昭和55年2月22日)の一面が掲載された復刻版をいただきました。「河北由来偉人多し、…」と、河北新報の抱負が始まる創刊号の一面、4段目から6段目にかけて「白石真田」という小説が掲載されていました。片倉家第二代の小十郎重長公が、大坂夏の陣で大坂城落城寸前に敵将真田幸村公の息女を託される場面が描かれたものです。連載物なの創刊号のみだったのかは分かりませんが、わが白石の英傑が取り上げられていたことに驚いたと同時に、「小十郎」のおとこ気や忠義、信頼といった人間性が高く評価され、史実とはいえ、

現在、小十郎関連グッズが市民の手で生み出されています。例えば、折り紙ならぬ「小十郎型前立付き折り銅板兜」や、ペーパークラフトによる「小十郎兜」。白石城や片倉小十郎の文字と影絵風イラストによる新たなステッカー。

うれしくて仕方ありません。「ひ」と動き始めてきたな」と感じます。それぞれが持つアイデアと技術が生かされ、潜在能力が芽吹いてきたようです。そうそう、タクシー業界では、白石の方言を載せた「よーぐ こらったない あ

生かし、それをどのように料理加工しているのかと楽しもうとしている市民が、老若男女を問わず多数出てきたのです。なんと素晴らしいことでしょう。片倉家初代小十郎景綱公に、姉の喜多が「片倉家の名を天下に鳴

り響かせよ」との願いを込めて贈った「黒釣り鐘の大馬印」。第50回を迎える全日本こけしコンクールや秋のDCキャンペーンなどで、今年は来白者が多くなりまして、その時、白石の名を鳴り響かせる鐘を打つのは私たち市民一人ひとりです。澄んだ、元気な鐘の音を大いに鳴り響かせましょう。

【2月号の答え】

ホットドッグは、アメリカカフツトボールリーグ(NFL)の観戦者用に売り出されたのが始まりです。爆発的にヒットし、犬を使って商品を描いた漫画家が名称を「ホットドッグ」と書いたところ、短期間で全米に定着したそうです。